

大雨・洪水災害に注意！

8月12日頃から九州・西日本を中心に大雨による災害が発生しています。

14日には、長崎県・佐賀県・福岡県・広島県などに「**特別警報**」が発令され、中部地方や長野県などでも大雨による「河川氾濫」など発生しています。

ご家族や親戚・知人などいらっしゃれば、コロナ禍ではありますが「**命を守る行動**」を最優先に連絡を取ってください。

また、しばらくこの「大雨」が続くと言われています。私たち自身も浸水や洪水には十分注意し、早めの行動を心がけてください。異常気象での自然災害を甘く考えず、今までとは違うという意識を持っていきましょう！

5段階の警戒レベルと防災気象情報

気象庁ホームページより

警戒レベル	住民が取るべき行動	市町村の対応	気象庁等の情報		相当する警戒レベル				
5	命の危険 直ちに安全確保！ すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない	大雨特別警報	氾濫発生情報	5相当				
<警戒レベル4までに必ず避難！>									
4	危険な場所から全員避難 過去の重大な災害の発生時に匹敵する状況。この段階までに避難を完了しておく。 台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	避難指示 第4次防災体制 (災害対策本部設置)	土砂災害警戒情報	高潮警報	高潮特別警報	極めて危険 非常に危険	氾濫危険情報	4相当	
3	危険な場所から高齢者等は避難 高齢者等以外の人も必要に応じ、前段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	高齢者等避難 第3次防災体制 (避難指示の発令を判断できる体制)	大雨警報	洪水警報	高潮警報に切り替える可能性が高い注意報	警戒 (警戒級)	氾濫警戒情報	3相当	
2	自らの避難行動を確認 ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	第2次防災体制 (高齢者等避難の発令を判断できる体制) 第1次防災体制 (連絡要員を配置)	大雨警報に切り替える可能性が高い注意報	大雨注意報	洪水注意報	高潮注意報	注意 (注意級)	氾濫注意情報	2相当
1	災害への心構えを高める	心構えを一段高める 職員の連絡体制を確認	早期注意情報 (警戒級の可能性)						

「避難情報に関するガイドライン」(内閣府)に基づき気象庁において作成

※1 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3(高齢者等避難)に相当します。
※2 「極めて危険」(濃い紫)が出現するまでに避難を完了しておくことが重要であり、「濃い紫」は大雨特別警報が発表された際の警戒レベル5緊急安全確保の発令対象区域の絞込みみに活用することが考えられます。